

事業名：図書館資料整備事業

情報図書館 主査（奉仕・事業）

政策	05 豊かさや創造性を育む生涯学習環境の充実							
施策	02 生涯学習の充実							
基本事業	01 生涯学習関連施設の充実							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民及び市内に通勤・通学している人

手段（事務事業の内容、やり方）

- ・情報図書館の収集方針にしたがって資料を収集する。
- ・月1回選書会議を行い、購入する図書を選定する。
- ・相互貸借により資料を提供し、補完する（道立図書館・全国公共図書館・道内外の大学図書館等）。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

時代の趨勢や地域性を常に意識し、幅広いニーズに応えられるような資料を収集し、提供することにより、図書資料等に対する市民の関心が高まり、より多くの市民が利用するようになる。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市民	人	121,705	121,385	120,802	120,802
対象指標2						
活動指標1	資料購入冊数	冊	12,319	10,849	10,971	10,600
活動指標2						
成果指標1	市民一人当たりの貸出冊数	冊	7.4	7.3	7.2	7.4
成果指標2	予約及びリクエスト件数	件	90,818	94,162	97,619	96,000
事業費(A)		千円	21,600	22,050	21,978	22,050
正職員人件費(B)		千円	2,809	3,607	3,516	3,521
総事業費(A+B)		千円	24,409	25,657	25,494	25,571

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	図書館の運営に必要な図書・雑誌・視聴覚資料の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料購入費 17,957千円 ・雑誌、新聞、その他逐次刊行物、視聴覚資料の購入費 4,021千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
平成元年当時道内32市中既に30市に図書館があり、市民からの建設要望があつて8月開館した。	
事業を取り巻く環境変化	
図書館間のネットワークが整備され、自館に所蔵のない資料の提供が可能となっている。 ※平成26年度よりNO.447「子どものための読書環境整備事業（地域活動支援事業）」の事務事業評価表を統合	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由根拠 ・ 図書館法、江別市情報図書館条例、子どもの読書活動の推進に関する法律なども定められており、妥当と考える。 ・ 民間では行えない各分野の資料の収集・保存・提供は、公共図書館の役割である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由根拠 市内の公共施設の中でも利用の多い施設である。図書館の役割は、各ジャンルの資料の収集、提供及び最新の情報をそろえ市民の個別の学習要求に応えていくことであり、それらを充実させることで利用者の増加が見込めることから、貢献度は大きいと判断される。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由根拠 市民一人当たりの貸出冊数は横ばいであるが、インターネットの普及もあり、予約及びリクエスト件数は増加している。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由根拠 資料提供に関して、図書館間のネットワークにより自館に所蔵のない資料の提供も可能であり、トータルな意味での成果向上の余地はある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由根拠 公立図書館としての資料収集方針に則り、また、利用者のニーズ動向に合わせ資料を収集するための必要経費であるため削減は難しい。